

都道府県名	石川県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	金沢市立大浦小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	3	17	24
児童数	94	82	67	66	52	69	7	437	

II 研究の概要

1. 研究主題

「自ら求め 学び合う子」の育成をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年生・算数  
児童の理解状況に差が出やすい教科であるため
- ・ 1～6年生・国語  
児童に対する実態調査から、読解力をより向上させる必要があると捉えたため
- ・ 5, 6年生・社会  
児童に対する実態調査から、社会科における思考力・判断力を一層向上させる必要があると捉えたため
- ・ 3～6年生・理科  
児童に対する実態調査から、理科における科学的思考力を一層向上させる必要があると捉えたため

(2) 年次ごとの計画

<平成15年度>

- テーマ 「自ら求め 学び合う子」の育成をめざして
- 研究の見通し
  - ・ 基礎学力定着へ向けた具体的取り組みの実施
  - ・ 学力向上に繋がる授業の実施
  - ・ 全学年少人数学習（算数科）による確かな学力の向上
  - ・ 客観的調査による学習到達度の把握
  - ・ 学習到達度調査と学習意識調査の考察データをもとにした保護者・家庭との連携方法の明確化
- 研究の内容と方法
  - ・ 日々の授業における課題解決学習を中心とした授業展開のより効果的実施方法の蓄積を行う
  - ・ 研究授業を通して、「聞き合う」ことを重視した授業の在り方を探り、具体的な教師の支援についての共通理解を図る

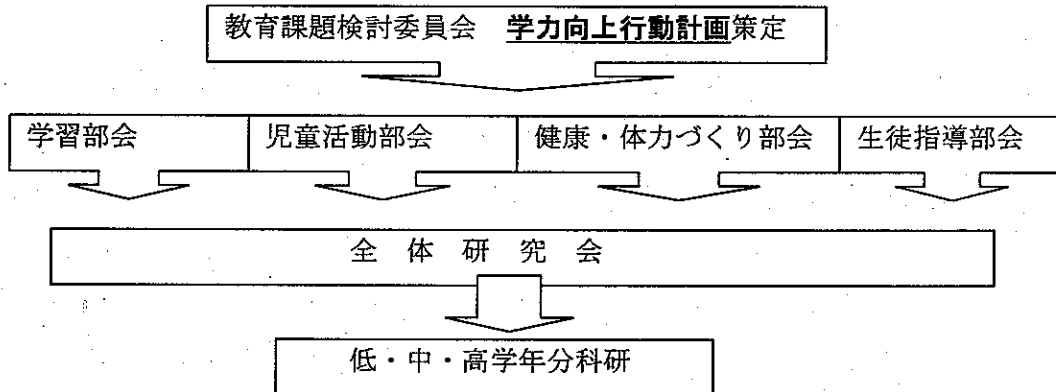
<平成16年度>

- テーマ 「自ら求め 学び合う子」の育成をめざして
- 研究の見通し
  - ・ 基礎学力定着へ向けた具体的取り組みの精選と効率化
  - ・ 学力向上に繋がる授業の継続的な実施
  - ・ 全学年少人数授業（算数科）による豊かな学力の向上
  - ・ 客観的調査による学習到達度に対応した年間指導計画の作成とそれに基づいた授業の実施
  - ・ 学力向上に向けた保護者・地域との具体的な連携策の実施

### ○研究の内容と方法

- ・課題解決学習の中で、特に児童が意欲的に考えや思いを表出するための具体的な支援方法を蓄積する
- ・研究授業を通して、「学び合い 深め合う」ことを中心に据えた授業の在り方を探り、その具体的な支援策や教材開発に努める

### (2) 研究推進体制



\* 全学校教育活動を通して、児童の学力向上を目指すため、学力向上行動計画を策定した。それに基づいて、各部会が具体的な取り組みを実施してきた。特に、学習部会を統括する研究担当と学力向上行動計画全体を統括する教務主任が連携を密にすることで、より児童の実態に応じた具体的取り組みを実施するようにしている。

### Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

##### (1) 全学年習熟別少人数授業の実施について

今年度から、全学年で習熟度別少人数授業を算数科で実施している。1～3年は1クラスを2グループに、4～6年は2クラスを3グループに編成し授業を行っている。この結果、昨年度に比べ児童一人一人の学習状況に合った授業展開が行える機会が増えてきた。特に、習熟に差が見られる数と計算領域の単元では、人数編成を大胆にし、理解に時間を要する児童へは個別指導に近い形態で実施する時間も設定してきた。また、学習状況が良好である児童に対しては、発展的内容を取り入れることができ、思考力をより養う授業展開ができるようになった。

今年度12月に実施した児童向けアンケート(3年生以上で実施)では、「少人数授業はよくわかる・どちらかと言えばよくわかる」と97%(内「よくわかる62%」)と答えている。授業の一つの形態としては、子ども達に受け入れられていると考えている。

##### (2) T.T指導の実施について

理科・生活科・総合的な学習の時間を中心にT.T指導を実施してきた。理科の実験や生活科・総合的な学習の時間のグループ活動等で実施することで、従来よりもきめ細かい指導ができた。また、授業の中で形成的評価も行い、指導と評価の一体化がさらに進んだ。

##### (3) 指導方法の改善について

学習面では「進んで学ぶ子」を具体的な子どもの姿として捉え、授業実践してきた。特に、今年度は「課題が子どものものとなるための支援の在り方」、「学び合うための支援の在り方」の2点に焦点化して、研究授業等を通して指導方法の改善に努めてきた。以前に比べ児童の多くは、課題に対して自分の考えや思いを持てるようになった。また、課題が子どものものとなるような具体的支援についても、教師間で論議する機会が増え指導方法の改善の一助となった。

##### (4) 「スキルタイム」の実施について

毎朝(木曜日は読書タイム)5分間、集中して基本的な計算練習や漢字練習に取り組むスキルタイムを実施してきた。基本的内容を繰り返し練習することで、学習内容の定着が以前に比べ確実になっている。

(5) 保護者との連携について

学力は、学校の取り組みだけでなく、保護者とこれまで以上に連携を密にすることで向上すると考えた。そこで、児童の意識調査及び保護者への学校に対するアンケートを実施した。その結果をスクールフォーラムで保護者に知らせた。児童の学習に対する意識や保護者の学校に対する意識等を公開し、学校の具体的な方策を説明した。また、「朝食をとる」「翌日の準備を前日に確認する」等家庭で配慮して欲しい点についても取り上げた。学力向上というテーマで学校と保護者が連携し合うための1つの機会となった。

2. 今後の課題

(1) 指導方法の改善を一層進める。

今年度6月実施の児童意識調査結果では、「学校の授業がどの程度わかりますか」という問いに対し、3年生以上では80%が「よくわかる・だいたいわかる」と答えている。つまり、20%の児童はよくわからない状況にあると言える。この結果からも、「わかる」授業、「学ぶ価値のある授業」を展開していくことが急務である。そのためには、教師一人一人が指導方法を改善し、指導力を向上させていくことが最大の課題である。

そこで、来年度は以下の点に配慮していく。

\*教材の本質(価値)に迫る教材研究の推進

⇒校内研究授業の事前研究会の充実

\*基本的な学ぶ力の指導

⇒学習に対する基本的構えの指導の充実、基本的学び方の指導の充実

\*具体的な評価方法の改善

⇒「自ら求め 学び合う」に合致する評価内容(テスト等)への改善

(2) 保護者との連携を一層進める

学校側の方策説明だけでなく、学力向上を受けた具体的なテーマに基づき両者が話し合う機会を設ける。それにより、保護者・学校が一体となって児童の学力を向上させるようにしていく。

IV 学力等把握のための学校としての取組

<学習到達度調査・学習意識調査の実施> (予定)

\*目的

- ・児童の学習内容の定着程度を客観的に見取るため。
- ・児童の学習等に対する意識を見取り、到達度の関連づけた考察をし、今後の指導に役立てるため

\*実施内容

国語科、算数科での学習到達度調査及び学習意識調査

\*実施時期

平成16年1月末

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<公開研究会の開催>

これまでの取り組み成果を他に広めるとともに、多くの意見を頂き今後の参考にするために公開研究会を開催する予定である。その際、フロンティアティーチャーが中心となり成果を普及する取り組みを行う。(日時等は未定)

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】       15年度からの新規校                       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T. Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】       国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無